

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立浜松特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立浜松特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部

1. 使用状況

寄贈物品名	コンビネーション遊具
使用学年及び人数	小学部125人、中学部 87人
使用頻度	体育科、生活単元学習の授業や昼休みなどで毎日使用
使用状況 <small>*具体的に 記載してください</small>	<p>第6学年の体育科「器械・器具を使った運動遊び」では、ジャングルジムの登り下り、うんていでのおぶら下がりや渡り、ネット登りなどいろいろな動きを経験した。うんていができるようになりたいと自ら目標を持ち練習する児童の姿が見られた。第2学年の遊びの学習では、ボルダリングを登る、揺れる橋をバランスを取りながら渡るなど、好きな遊びを見つけて存分に体を動かしていた。遊具の上と下にいる児童同士で呼び掛け合う、揺れる橋を譲り合って通るなど、関わり合う姿が見られた。</p> <p>小学部、中学部の児童生徒が昼休みに使用し、遊具の上で景色を楽しむ、滑り台で繰り返し遊ぶなど、好きな場所や遊び方で毎日のように過ごしている。</p>
物品の使用による 変化や効果	<p>体育科の授業では、楽しく運動に取り組むことができ運動量が増えた。また、スムーズにネット登りができるようになった児童、うんていをリズムカルに渡ることができた児童など、体の使い方が向上した。また、昼休みに遊具の好きな場所で過ごすことで、気分転換の方法を増やした児童生徒が多く情緒の安定につながった。小学生から中学生までが活動できる遊具なので、小学生と中学生と一緒に過ごすことができ、順番を待つ、譲るなど社会性が育まれた。</p> <p>第6学年を中心に小学部の児童全員で遊具に名前(わくわくランド)を付け、お礼のパネルを作成するなどの活動に取り組んだ。作成したパネルを第6学年の児童がスズキ歴史館に届け、直接感謝の言葉を伝える経験ができた。これらの活動を通して、遊具への愛着が湧くと共に、物を大切に扱おうとする気持ちの醸成を図ることができた。</p>
今後の活用の 見通しや課題	<p>今後は、小学部体育科の年間指導計画の「器械・器具を使った運動遊び」に取り入れ、体を動かすことの楽しさや体力の向上を段階的に指導していきたい。さらに公共施設の遊具を楽しめるようになることを願い、マナーなど安全に遊ぶ遊び方の指導に使用し、危険に対する判断力の育成を図りたい。</p>
その他 希望や所感など	<p>子どもたちで決めた「わくわくランド」の名称もすっかり浸透し、愛着を持って遊びや運動に使用しています。昼休みに「わくわくランド」で遊ぶことを朝から楽しみに登校する児童が多く、学校生活がより充実したものになっています。いろいろな動きを経験できる豊富な種類と十分な大きさで、小学生から中学生まで幅広く使用しています。今後も大切に使用していきたいと思っております。ありがとうございました。</p>

2. 活用の様子



昼休みには、遊具「わくわくランド」で遊んでいます。
体育では、ボルダリングやうんていで体づくりに励んでいます。



遊具の名前「わくわくランド」はみんなで考えました。



6年生がスズキ歴史館にお礼のパネルを届けました。